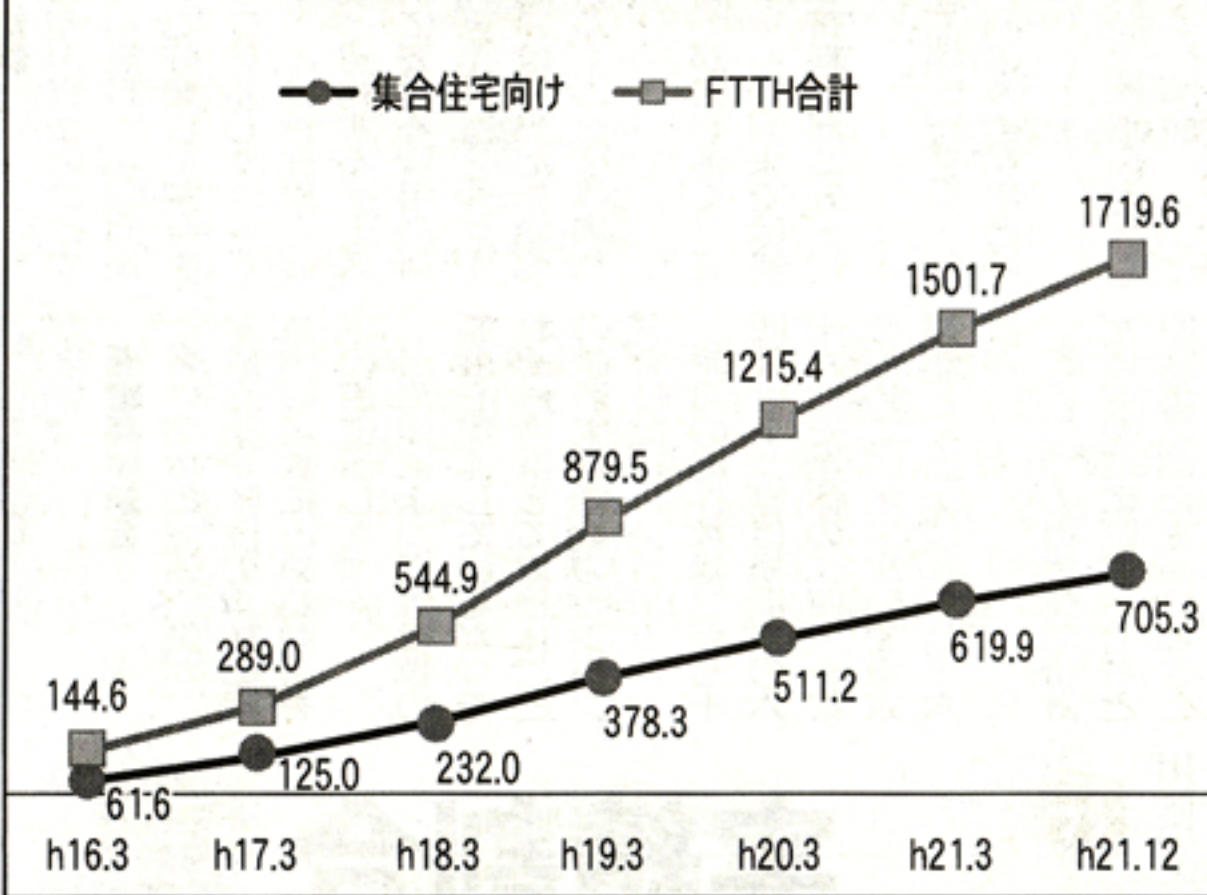
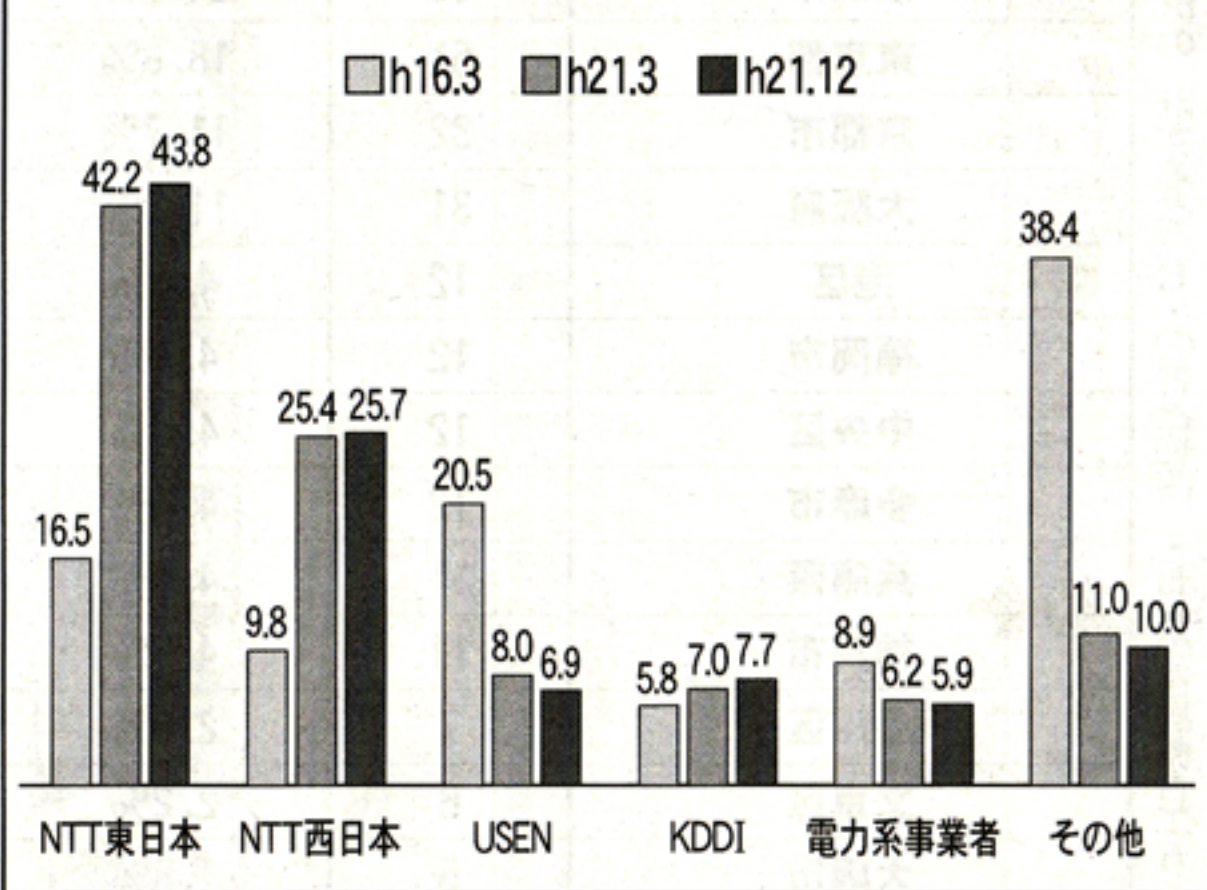


FTTH契約数の推移 (単位・万契約)



(総務省公表データを元に作成)

集合住宅向けFTTH契約数の事業者別シェアの推移 (%)



(総務省公表データを元に作成)

技術の進化が著しいインターネット。一方で管理組合の活用が追い付いていないという指摘もある。プロバイダー事業者らによるインターネット活用術を探ってみた。

総務省の統計によると、集合住宅向けFTTH(光ファイバー)の契約件数は平成二十一年末現在約七百五十万件で、五年前と比べて十倍増。建物まで光配線、各住戸までは電話回線のVDSL方式を含んだ数値で、「各住戸まで光配線か

不明」(電気通信事業)として、建物まで光配線のマンションは増加の一途だ(グラフ参照)。FTTHの事業者別シェアは、NTTが拡大し東アでは、NTTが大半を占める。西では、NTTが約七割を占め、その他事業者は軒並み一割以下に落ち着きつつある。

「長谷工

無料揭示板サービスも

加価値サービスに力を入れている。つなぐネットコミュニケーションズでは共用施設の予約等が可能な「マンションコミュニケーションパック」を提案し、現在契約物件の四割強に当たる約四百棟で導入されている。ICカードシステムと連携可能な建物では施設利用料の決済もネットで行えるため、小口現金の管理にも役立つ。

「プロバイダー事業者とは異なる、コンテンツ事業者として居住者専用のコミュニケーションにも効果を挙げている。二テイスサイト作成に特化した「マンション管理に精通したプロバイダー」として、管理の効率化を提案できるのが強み」(小林暁・カスターマー営業グループ執行役員)と話す。

「プロバイダー事業者から多くの住民は管理組合のホームページを見ていない」という声も聞かれる。無関心だから見ないのか、中身が問題なのか、事業者の試行錯誤は続く。

光導入の既存マンションは建物まで光配線、棟内をLANまたは電話回線の方が主流だが、新築マンションでは各住戸まで光配線され、最大速度二〇〇メガビット/秒に達している。進化しており「家庭で使用する以上、月額千五百円程度で現行速度に不自由さを感じていなければ、あえて月額四、五千円の光配線に移行するメリットは小さい」(個人ベースの高速インターネット事情)

「ファミリーネット」の秋山豊取総務部長は「ファミリーネット環境が普及する可能性もあり、十年後は配線工事不要と考えるマンションも出てくるかもしれない」(NPO法人マンションIT化支援センターの松尾義一理事長)との指摘もある。

「マンションに特化したプロバイダー事業者では、付加価値サービスを提供している。一方長谷工アネシスでは、平成十六年から現在四組合が活用し、携帯端末からも利用できる。多くの事業者がサービスを開始したり、共用施設予約システム、地域情報、回覧板機能などを充実させている。

「ファミリーネット」の秋山豊取総務部長は「ファミリーネット環境が普及する可能性もあり、十年後は配線工事不要と考えるマンションも出てくるかもしれない」(NPO法人マンションIT化支援センターの松尾義一理事長)との指摘もある。

「マンションに特化したプロバイダー事業者では、付加価値サービスを提供している。一方長谷工アネシスでは、平成十六年から現在四組合が活用し、携帯端末からも利用できる。多くの事業者がサービスを開始したり、共用施設予約システム、地域情報、回覧板機能などを充実させている。

ネット事情 マンション ネット事情 共用施設予約、修繕履歴管理…

「住民は管理に無関心なのは、電子掲示板は潜在的に「電子掲示板は潜在的に」(栗原達也社長)と自信をみせる。組合役員の許容範囲を超える一部住民のエキセントリックな投稿があった場合は「役員らが相手のパスワードを取り消すなどの対応ができる」としている。